

兵庫県生物学会活性化の試み 練習船の見学会を通しての実践例

丹羽 信彰*

1996 (平成8) 年7月13日新長田勤労市民センターで行われた兵庫県生物学会の平成8年度事業部会において基本問題検討会が開かれ、兵庫県生物学会の活性化について話し合いの会が持たれた。今の兵庫県生物学会を魅力ある学会にし、蘇生・活性化するにはどのようにすればよいか?そこで会員の方々が知恵を出しあった。いろいろな活性化のアイデアが出された。(試案)の討議資料の(10)私の夢に、淡路の臨海実習があるのなら、大学の練習船や海洋調査船の見学会やトロール網の操業実習はできないだろうか?と考へ「長崎丸もしくは鶴洋丸の見学会」を提案した。その時は全くの夢物語であった(後に両方とも関係者各位の御努力によって実現することになる)。たまたま、長崎大学の同窓会の大阪支部長とお話しする機会があった。これまで神戸港や大阪港に長崎丸はほぼ隔年で入港していて、そのつど同窓会の船上パーティーが開催されていた。震災後は、一時滞ったが、前年の4月にも神戸港に入港していた。1998年は和歌山入港予定であった。そこで神戸港入港の願いを込めて大阪支部長を通じて嘆願書をしたためた。その結果、和歌山入港予定が神戸港入港に変更され(大学側の御厚意、御配慮で翌年と入れ替えて下さった。)、なんとか兵庫県生物学会と兵庫県高等学校教育研究会生物部との共催の見学会にこぎつけ開催が実現した。

①—長崎大学水産学部練習船長崎丸見学会—

日時:1998年4月19日(日)13:00~17:00

場所:神戸港新港第1突堤Cバース

内容:兵庫県生物学会永吉会長の挨拶

長崎大学水産学部多部田学部長の挨拶

長崎丸高木船長の挨拶

長崎丸概略説明

ビデオ鑑賞

最新海洋観測機器および漁具漁法解説

船長講話

長崎丸船内見学(2班に別れて)

自由解散

参加形態:兵庫県生物学会会員および家族・学生・生徒など水産や環境問題海・船の好きな人同伴でも結構です。大歓迎!!

参加費用:無料

1998年4月19日の日曜日(13:00~17:00)に神戸港新港第1突堤Cバースに接岸中の長崎大学水産学部所属の漁業練習船「長崎丸」(総トン数842トン)の見学会が開催された。幸い、天候にも恵まれ、会員や家族、生物部の生徒など合わせて84名の参加者が、船の設備のコンピューター化された様子と船内生活を肌で感じていた。兵庫県生物学会を代表して永吉照人会長の挨拶、および長崎大学水産学部多部田修学部長の挨拶や長崎丸高木保昌船長の挨拶に引き続いて、高木船長に会員のお孫さんから花束贈呈がなされた。そしてビデオ鑑賞と船内見学は、人数が多いので2班に別れて鑑賞した。ビデオ鑑賞は長崎丸の概略および学生の海洋実習、潜水艇からの海中の様子などで、長崎丸船内見学は順路にしたがって、船の設備や最新海洋観測機器などを見てまわった(レーダーや魚群探知機は停泊中は止めているが、見学中は特別にまわしてくれていた。しかも、説明付であった)。普段、あまり目にする事のない本物の漁業練習船の見学のまたとない機会に、参加者の中には記念写真を撮影したり、ビデオ撮影などをして堪能していた。自由解散であったが、さらに興味・関心のある方は、漁具漁法の解説や最新海洋観測機器の解説を受けていた。乗組員の方の他に本航海では長崎大学・北海道大学の専攻科の学生さんが乗船してたので、いろいろ聞いていた。水産や環境問題、海・船の好きな人にとっては大満足の日で海の素晴らしさに感動していた。後に学部長から学部紹介の冊子160冊をお送り下さった。会は事故もなく大盛況であった。

これまで、兵庫県生物学会の理事や高校教師の組織である兵庫県高等学校教育研究会生物部会神戸支部副部長や理事をさせてもらい、多くのイベントの企画立案をし、現在、兵庫県下の生物関係イベントの多くを企画させてもらっている。いわゆる仕掛け人になっている。他方、学位を頂いた長崎大学水産学部にて御恩返しと、毎回1000トンクラスの練習船の神戸港入港のお世話を夢中とする内に、同窓会鶴水会の兵庫支部支部長(会員約200名)になり、引き続きお世話をさせてもらっている。

②—長崎大学水産学部練習船鶴洋丸見学会—

今日、社会構造の変化とともに、教育を取り巻く環境も大きく様変わりし、「少子化」の波は今や大学にも押し

* 2002年4月より六甲アイランド高等学校(前任校の神戸市立葺合高等学校にて作成・投稿)

寄せて来ている。さて、2008～9年には大学の入学定員数と18歳人口が理論上一致する大学全入時代を迎えて、いわゆる少子化で何処の大学も生き残りをかけての激しい生徒の奪い合いがある。最近では神戸大学一神戸商船大学や東京水産大学一東京商船大学の合併の話や大学、学部の改組改編が盛んである。その危機感は高校の進路指導部や予備校の方が敏感に反応している。意外に大学内部にいと分からないようである。数年前から長崎大学水産学部に働きかけて、学部のPRにあの巨大な練習船を活用すべきであることや大学の教官の高校への出張講義を企画するように進言していた。

本来オーストラリア、フィジーなどの外洋航海の運用専用の鶴洋丸の20年振りの神戸港寄港が実現できたことも、大学関係者への積極的な働きかけに加えて、このような厳しい状況が兵庫県生物学会として練習船を呼ぶ企画にはかなり追風になったことは確かである。

高校の生物学会や部会のお世話をさせていただき、県下の生物の先生方と繋がりがあり、大学の同窓会の役もお引き受けしている。そこで、両者(大学一高校)を繋ぐことはわけなくできる(実際、鶴洋丸の神戸港寄港は並大抵でなく、何回も学部長や船長、関係者各位にお願いした。)。昨年9月2日ついに神戸港に入港した長崎大学水産学部練習船鶴洋丸の船上において練習船の見学会と大学の説明会の開催が実現した。県下の高校の生物教師とその家族、高校生、高校の卒業生、同窓会の方など参加者82名であった。また、その様子は神戸新聞に掲載された。その後2日にわたって神戸地区5高校に対しての出張講義が実現した。

日時：2001年9月2日(日) 13:00～16:00

場所：神戸港新港第1突堤E Fバース

内容：兵庫県生物学会永吉会長の挨拶

長崎大学水産学部植本六良学部長の挨拶

鶴洋丸秋重祐章船長の挨拶および鶴洋丸の紹介

長崎大学入試説明(橘勝康・亀田和彦両教官)

および水産学部の紹介

鶴洋丸概略説明

海洋観測機器および漁具漁法解説

鶴洋丸船内見学(2班に別れて)

自由解散

船の方からの御厚意で家族・部員生徒などの参加も歓迎、学部統廃合の関係から鶴洋丸の神戸港寄港は今回が最後となりそうである。

参加費用：無料

2001年9月2日の日曜日(13:00～16:00)に神戸港新港第1突堤E Fバースに接岸中の長崎大学水産学部所属の漁業練習船鶴洋丸船上にて「鶴洋丸」(総トン数1044



2001年9月3日(月)神戸新聞に掲載される。

トン)の見学会が開催された。

出席者:御家族や生徒等全てを含め82名

今回も船長および乗組員の方々を取り計らい、御配慮で特別に入港中にも拘わらず、レーダーや魚群探知機、そして海洋観測機器などを公開し作動させて下さった。また、本船のような1000トンクラスの漁業練習船や海洋調査船の一般公開や乗船の機会は一般の方にとっては極めて少ないので、またとない機会であった。

今回は兵庫県生物学会や生物部会などの教育関係者で特に、兵庫県下の生物教師と生徒が中心であるため、練習船の見学会の中に大学の入試説明会的要素が取り入れられており、積極的に水産学部のPRが行われた。

なお、見学会の翌日から2日間にわたって本校(葺合高校)を含めて神戸市内の公立の5高校(神戸市立六甲アイランド高校、兵庫県立夢野台高校、兵庫県立御影高校、神戸市立葺合高校、兵庫県立神戸高校)において、長崎大学水産学部の橘勝康・亀田和彦両教官による、高校生に対する出張講義が行われ、長崎大学水産学部の存在が強くアピールされた。

見学会参加者82名、出張講義5校とお世話させて頂いた者としてもイベントが大盛会でひとまず肩の荷が降りてホッとしている。

私はミナミヌマエビ、ダルマガエルなどの研究や生物学会や高校の生物部会、大学・高校の同窓会のお世話などをさせてもらって感じることは、大学一高校の間のすき間を埋めるような部分を担っていきたいと思う。どうしてもそういう仲人や酵素の働きのような下支えのセクションが必要であると思う。

研究を継続していると学会などでその分野の専門家と知り合う機会も多く、うまくすると共同研究体制をとれる。そのような方達とのイベント企画は私にとっては比較的容易で、わけなく実施が可能になる。

今後も、夢のような「とてつもない」企画を考えたい。

例えばスペースシャトルをボーイング747の専用機に背負わせて関空か大阪空港に空輸して、飛来したスペースシャトルの実機の見学会を開催し、毛利さん、向井さんの講演会を開催するとか（誰か同窓生などで宇宙関係の知り合いの方いませんか？）、身近な企画では部会の方でジャイアントパンダの飼育のバックヤード見学の企画（ダルマガエルの共同研究者の知人が動物園にいるが、肝心のパンダが神経質なので実施はなかなか困難である。）はあるが未だ実現していない。

ダルマガエルに発信機を装着して追跡したり、阪神大震災の高速道路の倒壊の瞬間の目撃者を探し出して、東京工業大学で発表した所、NHKのプロジェクトXにお誘いを受けたり、外来種のチチュウカイミドリガニの大阪湾での分布西限を調査したり、ミナミヌマエビの卵の成熟に関してステージ分けをしたり、とにかく「とてつもないこと」に挑戦し、熱中する毎日です。

次の企画の何かの参考になればと2回の練習船の見学会の実践例を述べさせてもらいました。多くの会員の方々の御参加ありがとうございました。



写真1 1998年4月19日（日）神戸港に入港した長崎丸



写真2 長崎丸船上に集う見学者と兵庫県生物学会の永吉照人会長の挨拶、および長崎大学水産学部多田修学部長



写真3 長崎丸の概略および学生の海洋実習、潜水艇からの海中の様子などのビデオ鑑賞



写真4 乗組員の方の他に本航海では長崎大学・北海道大学の専攻科の学生さんが乗船してたので、海洋観測機器などの説明を熱心に受ける見学者

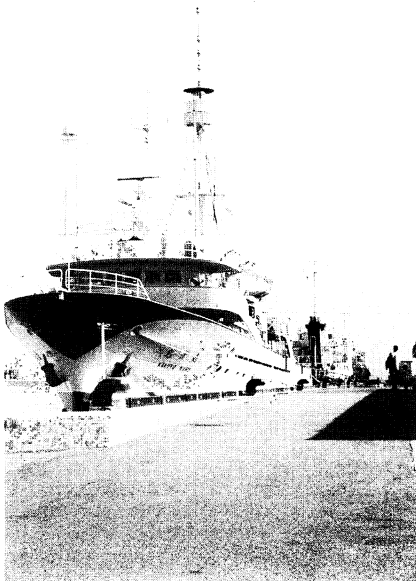


写真5 神戸港に20年振りに入港した鶴洋丸

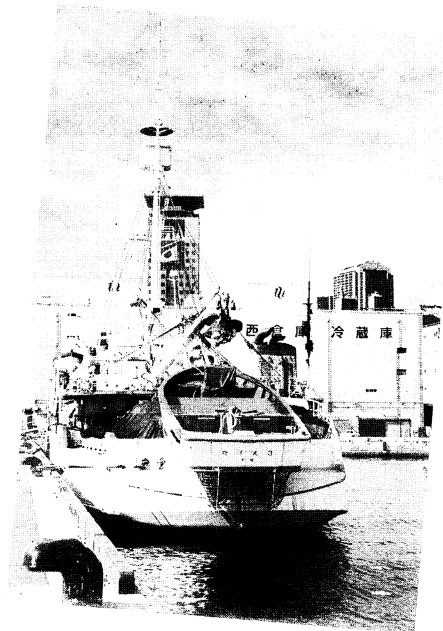


写真6 その優美な船体を神戸港に浮かべる鶴洋丸



兵庫県生物学会 永吉会長挨拶



長崎大学 槌本水産学部長挨拶



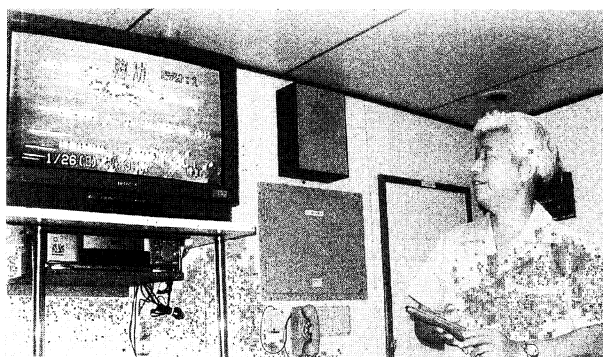
橘助教授 AO入試説明



亀田助教授 入試全般説明



司会 丹羽



秋重教授（鶴洋丸船長）米式まき網漁船操縦法 説明

写真7 平成13年度兵庫県生物学会、生物部会共催
鶴洋丸見学会:兵庫県生物学会 永吉照人会長の挨拶で
始まった見学会の様子
(写真7, 8は兵庫県立夢野台高校奈島弘明教諭撮影)

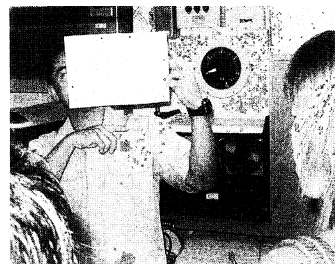
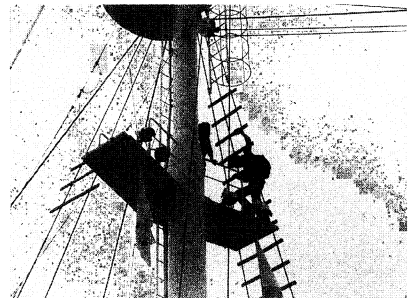
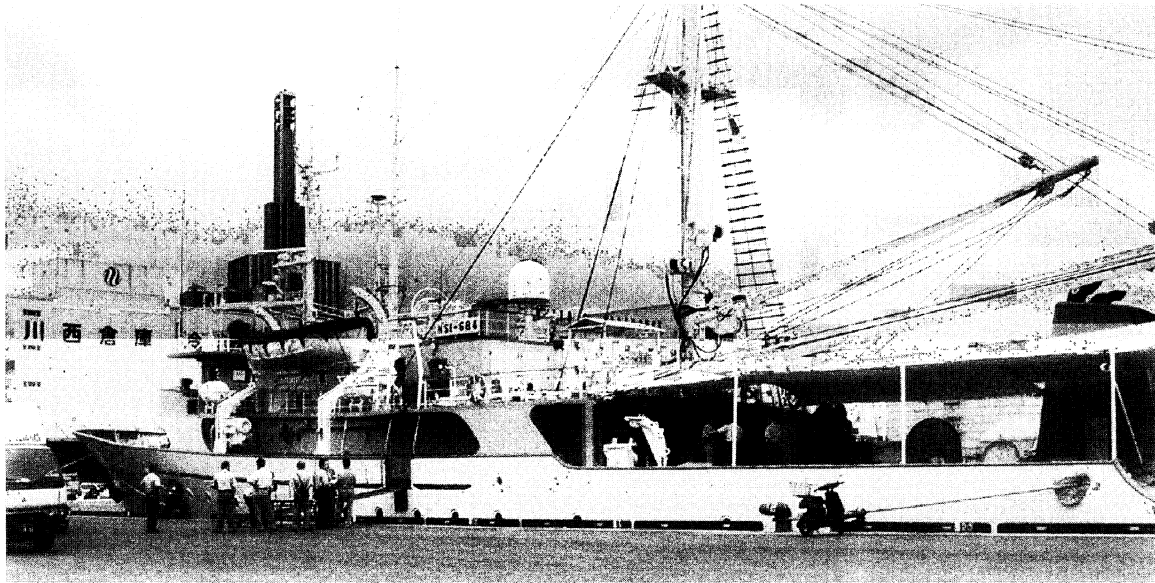


写真8 美しい鶴洋丸の船体と船内見学の様子。県下の生物教師とその御家族、生徒等82名もの参加者があった。
(写真7、8は兵庫県立夢野台高校奈島弘明教諭撮影)